

令和3年度 都城市立丸野小学校 学校運営協議会委員評価書

学校経営ビジョン	丸野愛を、知・徳・体・ふるさと教育の四つの分野から育てていく。							
学校の教育目標	丸野愛「愛」を育てる学校を目指す。愛＝丸野小の子どもたち・教師が、一人ひとりを大切に思い、行動する力							
めざす児童像	一人ひとりを大切に思い行動する子							
重点目標 (経営ビジョン)	1 分かる・できるの実現と基礎学力の向上を図る。 2 生徒指導の徹底を通して豊かな人間性の育成を図る。 3 健康安全教育の徹底を通して体力の向上を図る。 4 丸野に学び、丸野を愛し、ふるさとに貢献できる人材育成を図る。				※ 評価の基準 4 …期待以上 3 …ほぼ期待通り 2 …やや期待を下回る 1 …改善を要する			
評価項目 (重点目標)	手段・ゴールイメージ	自己評価の結果(4段階)			学校の自己評価(成果と課題)	学校運営協議会委員の評価		改善策
		職員	保護者	児童		評価	意見等	
1 分かる・できるの実現と基礎学力の向上を図る。	1 「わかる・できるを実感できる授業」を目指す。CRT テストの平均得点率全国以上を目指す。	3.4↑	3.6↑	3.6↓	○職員がわかる・できるを実感できる授業を意識して目指し、その成果が保護者にも伝わっている。児童の数値は若干下がっているが、評価は高い。	3.4	○ ICTを活用した授業が、スムーズに無理なく取り組まれている。 ○ 子どもたちの学習の充実に向け、校長先生を中心に、先生方が家庭との連携を図る努力を一生懸命されている。そのことが手に取るようにわかる。 ○ 授業参観を通して、児童がいろんな用途でICTを活用し、勉強していることに驚きました。楽しそうに授業に取り組んでいるように感じました。図書室のツリーの設置などとても工夫されている。	○ ICT機器の活用について、学年に応じた活用の在り方を整理し、授業改善を踏まえた主題研究を今後も進めていく。 ○ 学級懇談や学級通信を通して、学校の提案する家庭学習の手引きの活用を呼び掛けていく。 ○ 学校での読書の様子や学校図書を利用した調べ学習の活動等について家庭に伝え、児童の読書の実態を理解してもらう機会を増やす。
	2 主題研究で「ICTを活用した授業づくり」を推進し、授業改善のための研修を深め、教師の授業力向上を目指す。	3.3↑	3.5	3.9	○ICT活用による取組は、職員の授業改善の意識を高めており、特に児童はICT活用による授業の取組を肯定的にとらえており、学習意欲につながっているといえる。	3.8		
	3 家庭学習のさらなる充実と工夫、習慣化を図る。	3.1↑	3.2↑	3.6↑	○昨年と比べ、家庭学習の習慣化が職員・保護者・児童すべてで自己評価が高い数値となっている。担任の家庭への働きかけを保護者も協力的に受け止め子どもに関わっている成果といえる。	3.3		
	4 読む力向上のため、読書活動の推進に努め、各学年の平均貸し出し数低学年9冊、中学年7冊、高学年5冊以上を目指す。	2.7↓	2.7	3.1	○児童の読書に対する自己評価が高いのに反して、職員と保護者の自己評価は低い結果が得られた。児童は家庭で読むこと、ノーマディアデーの家庭での取組にも差があるためと考えられる。	3.6		
生徒指導の徹底を通して豊かな人間性	1 基本的な生活習慣のため、あいさつ運動やきまり・約束を守る態度の育成を図る。	3.2↑	3.3↓	3.7↑	○学校での児童のあいさつ運動や規範意識については、職員・児童の評価は高くなった。保護者の評価は若干下がったが高い評価である。	3.8	○ 大きな声であいさつしてくれたり、笑顔を見ることができると元気が出る。 ○ 子どもたちは、全員とてもあいさつが良いと思う。多くの体験活動をもとに、協調性が育ち、自主性も感じられる。子どもたちの豊かな心が育っていると感じる。 ○ 地域でのあいさつは大きな声でしてくれている。	○ あいさつは、校内ではできているが、家庭や地域では十分ではないと思われる。下足室前でのあいさつだけでなく、地域に広げるあいさつの意識を児童が持てるような運動を実施していく。
	2 各種体験活動を通じた、自主性や自立、協調性の醸成を図る。	3.0→	3.0↑	3.5→	○学校や家庭での役割を果たす自主性が高く、家庭での手伝いを積極的に取り組んでいるといえる。今後も体験的活動を推進し、児童の達成感や自主性の向上につなげていきたい。	3.2		
	3 認め、褒め、支え、鍛える学級経営を行い、自己肯定感、自己有用感の向上と自主的行動の育成を図る。	3.4↑	3.5→	3.6↑	○職員の学級経営の充実により、児童の自己肯定感や自己有用感が高まり、ほめられたことや学校で楽しかったことを家庭で話す児童が多い。保護者の自己評価も高く、家庭のあたたかみ状況がうかがえる。	3.2		
	4 様々な体験活動を通して、豊かな感性をもち、他者を思いやり一人ひとりを大切にしようとする児童の育成を目指す。	3.0↑	3.4↑	3.6↑	○他者への思いやりについては、職員・保護者・児童のいずれも高い評価結果が出た。職員の一人心に目を向けた対応や言葉かけが児童の感性を高め、思いやりや感情豊かな児童の育成につながっている。	4.0		
健康安全教育の徹底を通して体力の向上を図る。	1 「自分の命は自分で守る」ことを徹底し、交通安全の意識と危険を予測できる力を高め、規則を守って行動する態度を育成する。	3.3↑	3.4→	3.9↑	○感染症対策や廊下歩行など学校内の健康安全の取組だけでなく、登下校の際の上級生の言葉かけ、地域による見守りも児童の命を守る意識の向上につながっている。	3.8	○ 子どもたちは、みんな元気がよく健康そうではつらつとしている。体力向上のために学校が努力し、健康習慣の定着も図れていると思う。 ○ ホームページで「弁当の日」のお弁当をみると、栄養のバランスが考えられており「すごい。」と思います。家庭での手伝いに生かしてくれるとよいと思います。	○ 命を大切に児童の意識が高まるよう、生徒指導部と連携しながら取り組む。 ○ ホームページなどで校内の具体的な取組の様子を紹介し、併せて、保護者の啓発にもつなげていく。 ○ 基本的な生活習慣の定着を図るために、各学期のはじめにパワーアップ早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組み活動を継続していく。 ○ 「保健室便り」での情報発信と啓発を図っていく。
	2 志和池地区の体力の向上の課題である柔軟性の向上と基礎体力の育成を図るため、教科体育の充実を図る。	3.0↑	3.1↓	3.5↓	○教科体育での取り組みについては職員の評価は高い。保護者は家庭での様子から判断せざる負えないため、体力の向上の自己評価が難しく、コロナ禍のため閉じこもりの傾向を感じている可能性がある。	3.4		
	3 家庭と連携しながら、基本的健康習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ご飯・朝ウンチの習慣の定着、ノーマディアデーの取組)	3.1↑	3.2→	3.5→	○職員と比較すると、実際の家庭での様子から、保護者と児童の自己評価の数値が高く、家庭での基本的な生活習慣の定着が図られているといえる。	3.4		
	4 食育の推進を図り、弁当の日の実践を進めるとともに、歯の健康への関心を高め、う歯治療率のさらなる向上を図る。	3.4↑	3.1↓	3.7↑	○給食や弁当の日の取組から、職員と児童の自己評価は高い傾向がみられる。保護者の自己評価は低くはないが、児童に比べると低いことから、弁当の日の取組が家庭での日常化には至っていないようである。	3.8		
4 丸野に学び、丸野を愛し、ふるさとに貢献できる人材育成を図る。	1 学校運営協議会との連携を通して、ふるさと教育の充実と活動の工夫と体験活動の推進を図る。	2.5↓			○ほとんどの学年で、学校運営協議会との連携を中心とした取組が行われているが、職員の自己評価は低い。学校運営協議会とのかかわりと連携について職員への周知と活性化を更に図っていく必要がある。	3.8	○ コロナ禍の中でも、ホームページなどで学校の様子を発信したり、ボランティアやコーディネーターの方と連携して、できることを精一杯取り組んでおり、地域を大切にしていると感じる。 ○ 地域への多くの発信や子どもたちの地域に対する関心を高めるための努力を、先生方が一生懸命取り組まれていることが伝わってきます。	○ 地域の方々との交流は、コロナの関係で難しくなってきたが、ズームやミーティングを使った交流の実施等を工夫していきたい。また、地域だけでなく、様々な分野の方々との交流や講座、移動教室なども積極的に活用していく。
	2 児童のふるさとへの関心を高め、ふるさとを誇りに思い、自分を生かそうとする児童の育成を目指す。	3.0	2.7	3.7	○ふるさと教育や情報の発信に対する児童の関心があり、自己評価の数値は高い。学校での出来事を家庭で話すか、ふるさと教育や地域については家庭での会話が少ない傾向がみられる。	3.2		
	3 学校便りの発行及びHPの更新で、学校・児童のよさや活躍を定期的に家庭・地域に発信していく。	3.4↑	3.4↓	3.4	○学校長を中心に、学校の教育活動を随時ホームページで発信しており、保護者と児童の評価も高い。特に、児童が保護者と一緒に通信やホームページを見ると答えた数値が高く、保護者の数値とも一致している。	3.8		
	4 ふるさと教育の充実のため、地域の素材・人材・施設との連携や活用を図り、様々な教科での活用を推進する。	2.9↓	3.3→	3.8	○地域の人材や施設、地域素材を活用したり連携したりする取組は多い。しかし、指導の中で、ふるさとの特色や良さや生活のかかわりを触れることが少なく、児童や保護者が実感しにくいことが考えられる。	3.8	○ 児童がふるさと教育に高い関心を持っていることに、ボランティアとして大変うれしい。学校の様子がホームページでよく伝わってくる。 ○ 学校・保護者・児童・地域が一緒に関わることができるような授業ができるとよいのでは。	

